



第8回CPC

長期化学療法を施行した 高齢者肺癌の1例

開催日：平成20年6月18日(水)

時間：17:30～19:00

場所：病院本館C41講義室

関連科：呼吸器内科、泌尿器科、整形外科、放射線科、
がん治療センター、臨床病理

司会：松井真先生（神経内科）
中島日出夫先生（がん治療センター）
ミニレクチャー：笠原寿郎先生（金沢大学呼吸器内科）
我妻孝則 看護師（看護部）

症例：80歳代 男性

臨床経過：5年前、血痰を主訴に右肺S1、S9の腫瘍が発見され、気管支擦過細胞診にて腺癌と診断された。化学療法にて右肺S1の腫瘍は径5cm大から1cm大に縮小し、S9腫瘍はほぼ癒痕化した。1年後再発、骨転移を来とし、化学療法・照射が施行された。2ヶ月前から発熱・両肺野のびまん性網状陰影の増強がみられ、呼吸状態が悪化し、永眠された。

右上図は5年前の右肺S1腫瘍のCT像、
下図は同部の初回化学療法後状態。



CPC (臨床病理検討会)は病理解剖症例をもとに、私たちの医療行為を振り返り、医療の質の向上をはかることを目的とする勉強会です。研修医、各科医師はもちろん、学生、全職員、院外の先生方にも参加いただけます。放射線科医による画像の読影、コメディカルや看護師による指定発言、今回は金沢大学呼吸器内科の笠原寿郎先生に「肺癌の化学療法」に関して、我妻孝則看護師に「末期がん患者の緩和医療の問題点」のミニレクチャーを予定しています。

参加し、勉強しましょう！！

主催：金沢医科大学病院CPC実施委員会

連絡先：病院病理部（内線 5348）